

# ほおづえ

## 第7号

### 目次

- 1 会長あいさつ
- 2 建築学科主任あいさつ
- 3 新任教官紹介
- 4 北陸支部だより
- 5 関東支部だより
- 6 会員近況
- 7 学内近況
- 8 ほおづえ会からのお知らせ

会長あいさつ

## 設計と施工の間で

会長 宮川 浩志 (2期)

今年に入って施工図(総合図)の作成が仕事の主体となっている。昨年来、知人に協力を頼まれ、暫く考えた末の決断であった。

数年来の業界の不況の影響もあるのか、設計の仕事の減少もあって、今後のことを考えていた時期であった事もあり、思い切って仕事の主体を施工図作成へ移行した。

施工図自体はかつてゼネコンにいた事もあってゼネコン退社後も依頼があり、年間数件の現場施工図は描いてはいたが、あくまでも設計を主体にと考えて来ていた。しかし自分が設計した建物を振り返ってみて、設計へのこだわりを持ち続ける事のできた建物がいくつ有ったのかと考えたときに、今後も設計にこだわり続けられるのが疑問になって来た。

そこで、施工図への考え方も改めて、総合図としての有り方を考える方向に意識を変換してみようと思い、取り組み始めた。

施工図(総合図)を描き始めて感じることは設計図書の不完全さである。建物の規模が一定規模以上あり、時間的、予算的に十分に余裕が取れないのではないかと想像は出来るものの、それだけでは無い様に感じる。決して全ての設計者と言うわけではないが、設計物件に対しての設計者の力量不足があるように感じられる。

最近では、CADによる設計がほとんどになり、曲線を使用した建物が設計される事が多く、それが合成曲線であったり、3次元曲線であったり、又は曲線と直線の合成であったりしている。平面的には納まっているも、立体にした場合に構造部材が納まりきらない場面に直面することが多い。

設計者の意図に沿う為に試行錯誤しながら施工図を作成する事になるが、納まらないものをすっきり納めることが出来たときに施工図作成の意義を見いだしている。

施工図を作成しながら、新ためて設計の難しさを感じている。

建築学科 主任 金木 健

みなさんこんにちは。お元気ですか。

平成11年度を迎え、いったい何人の建築学科の卒業生を送り出したのかなど勘定しましたところ、40人クラスの25回生として、1,000人の卒業生ということになります。みなさんの社会での活動は総合すればかなり大きなものになりました。それは時間が流れたということでもありませんが、その中で苦勞しつつ成長していったみなさんの努力に敬意を表します。同時に世の中のさまざまなところで頑張っている1,000人の卒業生の、そのひとりひとりの思いが成就するよう願わずにはられません。

建築学科の近況についてご報告します。教職員につきましては伴俊明教官が平成10年2月に急逝され、3月天野正治教官が定年退官され、平成11年3月垂井洋蔵教官が退官されました。そのあとに新任の教官を迎えています。全体としてやや若返り、教育や研究の取り組みに新風が吹き込んでいます。たとえば今年度は設計教育に簡単な構造物を実際につくるワークショップをとり入れることを試みています。はじめてなのでいろいろ難問がありますが、実際にものをつくる作業は学生にきつと刺激となると思います。

現在石川高専は「専攻科」を設置すべく、体制を整えることを急いでいます。「専攻科」とは高専5年の上に2年の履修課程をつくり、4年生大学と同等の卒業資格をつくるものです。建築学科の場合、環境都市学科（従来の土木工学科）と組んで環境建設工学専攻（入学定員8名）をつくる予定です。ちなみに機械工学科・電気工学科・電子情報工学科は電子機械工学専攻（定員12名）をつくることになっています。体制づくりのため教官には、教育のレベルを維持しつつも、学位取得や、不断の研究姿勢が求められています。

この春から学校運営にも大きな変化がありました。人員削減のために、とうとう各学科の事務官をおかないことになりました。そのかわり一般教育科も入れて6学科の事務処理のため「教務係分室」なるものが機械科棟の一角に設置され、2名の事務官が配属されました。印刷などは、分室に依頼する場合、時間的余裕をもちつつ、書類でお願いしなければなりません。物品の発注も原則として教官自身が伝票を書くことになり、慣れないので苦勞しています。

また事務書類や郵便物は校内の一箇所に設けられた各教官部局あてのポストまで各自が出向いて受け渡しすることになりました。とりわけ主任のポストには学科あての事務書類・問い合わせ・郵便物が集中し、その処理がたいへんです。主任経験者が近くにいると何かと相談できて助かるのですが、ままなりません。新しいシステムに乗っていくためにはもうしばらく時間がかかりそうです。

建築学科学生への求人とはとくに昨年・今年と少なくなっています。昨年度は結果的にはみんな就職できましたが、就職口に従来ほどには選択幅がないのです。今年度から求人男女差別排除が実施されています。就職希望者28名中女性が14名おり、女性への門戸が広がることを期待していますが、いまのところ従来と変わらぬ厳しさを感じております。

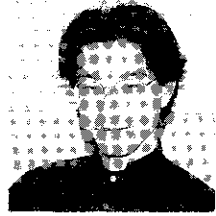
本校は学生を教育するだけでなく社会全般に対して教育分野でできることを模索していますが、こんど社会人むけに、本学科卒業生の建築界エキスパートのみなさんと本学科教官とが連帯して講師を勤める「フレッシュマンのための建築講座」が始まっております。いまのところ本校卒業したてのみなさんや在生がおもな受講生となっています。資格試験取得にあたり、よい成果が期待されると思います。今後ともいっそうのお力添えをお願い申し上げます。

## 新任教官紹介

### 感想と印象

—建築学科 講師 熊澤 栄二—

昨年12月に石川高専に着任して早くも5ヵ月が過ぎようとしています。教育方針としては、「設計そして研究を通じて学生とのリアルな関わりを大切に」をモットーに尽力していきたいと思っています。ここで自己紹介というのが常套なのでしょうが、代わってわが熊澤研究室が誇る優秀な学生諸君に教官の印象について熱く語ってもらいました。



[証言1]先生を最初に見た時は、学生ばかりで、心身共に力のなさそうなイメージでした。普段は研究室の女の子の間でも楽しくはなしをしたり、笑ったりしています。けれども授業中はまじめに講義をするし、研究室の課題にも厳しくめりはりがあります。

[証言2]先生は、おもしろい事を言わなさそうなのに、けっこう言うと思います。そう言う意味では31才なのに、私達に精神年齢が近いんじゃないでしょうか。

[証言3]先生は新任なので熱いです。一生懸命です。いつも忙しそうです。学生たちに課題をだすのはいいけれど、先生はさらにひどく(忙しく)なっている気がしてなりません。

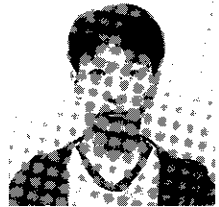
[証言4]最初の印象は“(ちょっと)マジメでかたそうな先生”だったけれど、意外とそうではなかったです。私達のことをギャル扱いしてくれたのはうれしかったです。生まれてはじめてギャルと呼ばれました。(19才 匿名希望)

[証言5]先生は毎日とても忙しそうで、教官室にお客さんが絶えません。先生の研究室に籍を置いている私達はもちろん、他の学年の生徒や先生など様々です。それは授業に関する用件のためではあるのですが、私はそれだけではなく先生の人柄がそうさせているのではないかと、思います。

### マルチスタンスの中で

—建築学科 助手 内田 伸—

平成元年4月1日、私は石川高専建築学科に入学しました。それから本学で5年、編入学先で5年、計10年間学生として建築を学び、平成11年4月1日、石川高専建築学科に就任しました。車の免許を未だに持っていない私は、今も学生の時と同じように電車で通勤しています。通学路は5年前と較べても大きな変化はなく、学内風景としては、確かに女性が増えたことを感じますが、強いて挙げるほどの変化は外見上ありません。ただし大きな変化が一つあります。それは、ここ2・3年の内に高専の学生間で急に普及した携帯電話です。授業中に着メロが流れることも珍しくありません。学生間における携帯電話の普及は、気心の知れた友人との会話の機会を増幅させたかもしれませんが、公的な会話をする機会を減少させたように思えます。その影響が端的に現れているように思えるのは、就職活動時に希望の会社に電話する時です。またこの現象は話すことに留まらず、文章で伝えることにも現れはじめてるように感じます。そのようなことも気にしつつ、今の高専の学生に何を教えることが必要なのかをということを、本学出身であり、今春まで学生であった自分の体験を振り返りつつ考えています。そして、私は自分(教師)のスタンスと相手(学生)のスタンスとの距離を見極めた上で、その距離に対して最も効果的であろうアプローチを模索しつつ考えています。その積み重ねが結果的に相手との距離を変化させることにつながる、と思っていますし、どんなに頑張っても、その距離は急に縮まるような類の距離ではないと思っています。しかし、たとえその距離が縮まらなくとも、距離感を失わないように、心がけ続けたいと思っています。相変わらず個性的な学生が多い建築学科で、個性的な学生達と、個性的なままつき合っていくためにも。



北陸支部長 山内 隆（4期）

昨年8月に総会が開かれてから早1年近く経過しました。  
各期の運営委員、幹事の皆さんには運営のための打ち合わせや行事の段取りなどでいろいろ活動していただいております。

早い動きと、さらに厳しい現代の社会では同窓会のあり方も、それにつれて変わってくるはず  
です。

活動していく同窓会にしていきたいと思っています。

7月には恒例の親睦会を下記のように開きます。たくさんの方々、家族連れでぜひ参加して  
いただきたいと思います。

今後とも参加協力よろしく願いいたします。

## 見学会の報告

平成11年4月10日(土)から1泊2日の日程で富山県内を巡る見学会が開催されました。「見学会  
& 地ビール & 温泉の旅」と銘打ち、「学び・呑み・癒す」の3拍子そろった企画で申込が殺  
到したらどうしようと心配までしていましたが、最終的に8名の参加となりました。

今回の見学箇所は次のとおりです。

- 高岡山瑞龍寺(国宝)：平成9年12月国宝指定。江戸初期の禅宗寺院建築。
- 立山博物館：立山信仰の世界を展示した博物館 設計：磯崎 新 ほか
- 宇奈月麦酒館：世界有数の名水として知られる黒部川の水で造った地ビールが楽しめる。
- 宇奈月ニューオータニホテル：宇奈月温泉+宿泊+朝食
- 前沢ガーデンハウス (YKK ゲストハウス)： 設計：楨総合計画事務所
- YKK 滑川寮： 設計：大野秀敏+アブル総合計画事務所
- 滑川ほたるいかミュージアム：特別天然記念物に指定されているほたるいかの博物館

どれも著名なものばかりですが、本当にすばらしいか  
どうかは自分の目で見て判断するしかありませんし、  
設計の意図がうまく機能しているかは現地で話を聞く  
のが一番です。また、通常なら気づきもしないような  
部分について説明を聞けるのもこういった機会がない  
とありません。

とはいうものの、万人が興味をそそる見学場所とい  
うのは少なく、見学会を企画する難しさを実感しました。



## 親睦会(バーベキュー)のお知らせ

毎回好評を得ておりますバーベキューを下記の内容で開催を予定しています。この場を旧友との  
語り、また家族サービスにご利用いただきたいと思います。

開催日：平成11年7月18日(日)

場 所： クロスランドおやべ (小矢部市鷺島) ふれあい広場

詳しい内容、会費等については後日連絡致します。

## 関東支部だより

関東支部長 中田 良一(4期)

ほおづえ会関東支部としてほとんど活動できていないことを、会員の皆様に許していただきたいと思えます。

本年2月に第2回関東支部支部総会を予定していたのですが、なかなか具体的などころまで進まずに今日に至ってしまいました。

活動としては恒例のロボコン高専部門の応援を、平成10年11月22日に行いました。しかし石川高専はあえなく敗退。残念無念。今年こそは石川高専チームの活躍と、建築学科チームの本戦参加を心より期待しています。

新年をはさみ相次いで、関東支部の重要な幹事だった米田正明氏(4期)森山学氏(18期)のお二人を転勤と就職で失いました。新しい職場での活躍を願っています。

ほおづえ会関東支部として会員の皆様の近況や会への希望、アイデア、同期生の関東への移動情報など求めています。

先の見えない不況の中、特に建築業界はひどいように思いますが、同窓会を通じてお互いの情報交換の場を作ったり、少しでも助け合うことができれば良いのではと考えています。

森山学(18期)

15期の高橋さん、17期の福島さんとともに、既に東日本/関東支部設立へ動いていた2期の伊藤さんにお会いしたのは5年近くも前のことになる。同窓というだけの見ず知らずの大先輩に会うこと、一つの活動が始まることについて、初体験ならではのフライングしてつんのめるような緊張感を感じていた。

えてして同窓会とは名簿を作り総会を開き昔話に花咲かせるものであって、そこから創造的に離れようとしても可能性は限られてくる、そんな先入観もあった。しかし創造的であろうとなろうと支部発足の準備会「すじ会」は活動を開始し、僕は先輩方とともにそこにちょこんと列席することになった。

それ以来僕は会議の度にそこにおいて、そこにただけでいざ発足してみると副支部長になっていた。僕がこの活動から恩恵ばかりを受けていたことの象徴のようだ。「お受験サークル」では4期の米田さんが献身的に一級建築士受験の指導をして下さった。初講義での一喝、僕の合格は全てあの喝に集約されていくように思える。

他にもボーリングをして、飲んで、熱海に行って、飲んで、釣りをして、飲んで、バーベキューをして、飲んで、ロボコン観戦をして、飲んで・・・総会も開いた。こうした関東支部の恩恵、ザ「すじ会」の恩恵に深く感謝しています。「えてして同窓会」なんてとんでもない。ほおづえ会が関東支部ともどもますます豊かに発展されることを期待します。

### 人のネットワーク

—澤本 清史(1期)—

2年前、永かった文部省暮らしにさよならして、金沢大学に建築課長で赴任して最初の仕事が大学病院の再開発計画だった。何しろ10数年間、建築の実務を離れ法律と予算の中で過ごしてきた僕にとって、大規模で複雑な病院建築はかなり荷の重いものだった。それでも何とか計画をまとめ工事に着手できたのは、実は多くの人々の助けがあったのである。

既に済んでいた基本設計を白紙に戻したいと言った時に、「よし、お前に任ず」と言ってくれた度量の大きい上司と病院長、目の覚めるようなアドバイスをくれた文部省の先輩、僕の計画を実現するために省内を走り回ってくれた後輩、免震構造の採用にはなかなか文部省の了解が得られず、相談に行った東大の岡田恒夫先生は、「耐震構造一筋の俺に、そんなこと聞くなよ」と言いながら後押ししてくれた。etc・・・、本当に大勢の人達に知恵と力を頂いた。

そんな中に石川高専卒業生も大勢いた。金沢市の景観問題で計画が頓挫しそうになった時に有益なアドバイスをくれたのは同期の野手君と恩師の櫛田先生だった。文部省の斉藤さん(9期)には設計・積算の助言を貰い、そこに提出する予算書を何度も書き直してくれた石田さん(2期)にはとても苦勞をかけた。設計と積算を手伝ってくれた川畑さん(23期)は今度は現場監理も担当する。工事を施工する清水建設の営業課長中野さん(6期C)とは今も何かと相談事が多く、現場には石黒さん(24期)がいて、僕も先輩風を吹かすが、彼女は彼女で所長よりも横柄な口をきく。清水建設のCADセンターでは6人の後輩達が施工図を描いてくれているそうである。

工事はとても順調である。このまま行けば西暦2001年夏に病棟が完成し、引き続き中診・外来棟に着手する予定である。それにつけても思うのは、人のネットワークの大事さと有り難さである。そして、このたった一つの病院の工事にこれだけ多くの高専卒業生が関わっていることは大したものである。建築学科が最初の卒業生を送り出してから25年、確実にその根が広がっていることを嬉しく思う。

### 明石高専 専攻科にて

—市川 環(24期)—

こんにちは。明石高専専攻科建築・都市システム工学専攻2年の市川環です。気が付けばもう2年生。卒業研究に就職活動にと日々過ごしています。

明石高専に専攻科ができて今年で4年目。私は3期生です。私が専攻している建築・都市システム工学は、その名の通り、建築学と都市システム工学が一緒になっています。学生は各学年に10人前後。そしてやはり明石高専から進学してきているひとが多いです。

専攻科の特徴は、修了すると学士の資格が取得できるという点。そんな専攻科の授業はというと、小人数なので先生と話す機会が多くあるけれど、都市システム工学と一緒にいるので、単位数の関係で都市システム系の授業をとる必要があったりします。そして専攻科での単位のみでは学士の資格が取得できず、放送大学でも単位をとる必要があるなど、資格を取得するところでは、やや難なところがあるなと思いました。カリキュラムのひとつに専攻科特別実習というものがあります。要は校外実習です。その実習先は、設計事務所や工務店、県庁などで、私はこの機会に以前から興味があった TeamZoo 象設計集団で実習をお願いしました。

私は卒業研究にインドでのル・コルビュジェの建築をテーマに選びました。他の人たちのなかには、高専のときと同じ研究室で続けて研究している人もいます。高専と専攻科がひとつつながりになっているよいところを感じました。

就職の問題はあいかわらず厳しく、それでいて専攻科がどういうものか、その存在もよく知られていないということを感じます。専攻科ということ自体新しく、数も多くないので仕方のないこと。今は形成段階にあって、今後の専攻科は自分たちのような学生たちの頑張り具合によってくるんだろうなあ、と思う今日この頃です。

## 四高専建築シンポジウムの報告

—川岸 昇(石川高専3年)—

平成10年11月20日に、呉高専において、第22回四高専建築シンポジウムが開催されました。四高専建築シンポジウムというのは、米子、明石、呉、石川の四高専の建築学科による成果発表及び意見交換の場で、相互に発展を目指そうということで、20年ほど前から開かれている交流会です。本校からは4年生1名、3年生2名、2年生2名、1年生2名の7名が出席しました。

呉高専主催の今回の発表は、四高専の発表者と、呉高専の学生が200人ほど集まり、緊張した雰囲気が始まりました。

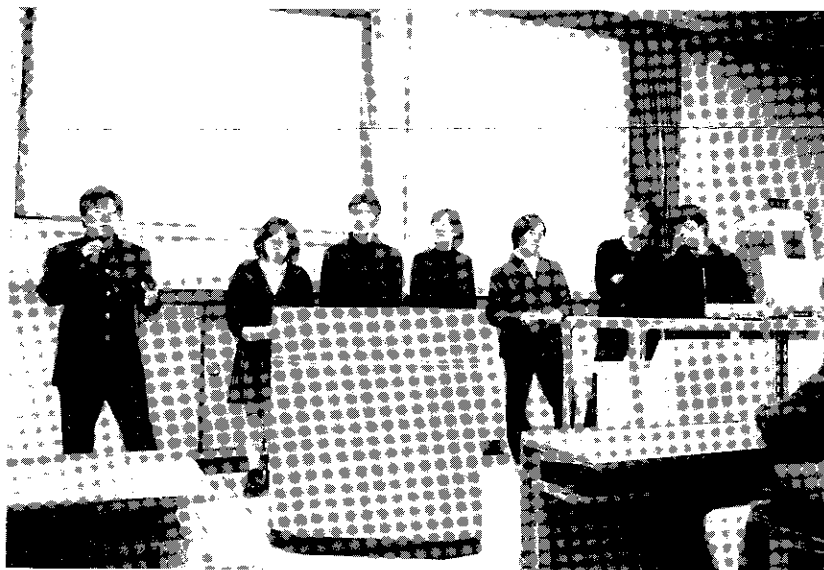
石川高専の発表は、OHPを主に利用しながら、1年生の課題や、4年生の、地域(森本地区)と一丸となって設計した課題を中心に進めていきました。1年生の課題の発表では、発表者の1年生が舌すべりのよいトークで会場を湧かせてくれました。また4年生の発表では、地域との関わりのプロセスや作品の発表会、また商工会との取り組みが新聞に取り上げられたことを中心に発表しました。所々に笑いも起こり、自分たちとしては満足のいく発表ができました。

また、他の高専の発表は、実に興味を引くものばかりで、特に主催の呉高専の発表はCGを駆使したすばらしい内容のもので、会場全体がその雰囲気にのまれるほどでした。

そのシンポジウムの後、発表者と関係者による反省会で様々な意見交換がなされました。そして、次年度に向けて、四高専を主体とし、全国の高専建築学科を対象に何か設計競技のようなことができないか、或いは何か共通のことができないかという意見でまとまりました。

シンポジウムは初めての体験でしたが、これほどすごいのかと驚きました。発表者の人たちは、すぐく建築を勉強したいという気持ちを持ち、積極的に意見する人たちばかりで、他高専ともっと多くの交流を持っていきたいと思いました。平成11年度は米子で行われますが、それに伴って、各校が協力し、建築家の伊東豊雄氏を審査員長に迎えて、全国高専コンペが催されることになりました。これによって四高専建築シンポジウムも一層発展していくことと思います。

最後になりますが、石川高専建築学科同窓会からも、このシンポジウム等に大きなご支援を頂いているそうです。この紙面をお借りして心よりお礼を申し上げます。また、建築学科同窓会は伝統ある高専の中でも、特に後輩にまで配慮して活動されていると伺っています。これからも、先輩方と積極的な交流を持てることを楽しみにしております。



# ほおづえ会からのお知らせ

## 1. 支部情報

- 中部支部：現在、山本進一氏(2期)を中心に支部設立準備が進められています。  
協力者を募集しています。協力できる人はご連絡をお願いします。  
連絡先：山本進一 勤務先 三井建設(株)名古屋支店 営業部 TEL:052-563-3218  
自宅 TEL:052-834-2569
- 関西支部：現在、井口秀栄氏(2期)を中心に支部設立準備が進められています。  
関西地区にお住まいの方で、支部設立準備のお手伝いをしていただける人を、  
募集中です。  
連絡先：井口 秀栄 TEL:06-6831-0564
- 北陸支部事務局：〒932-0833 富山県小矢部市綾子168 (株)吉田組内  
TEL / FAX:076-492-7463 E-mail:hozuekai@anet.ne.jp  
事務局長：富樫 吉規(20期)
- 関東支部事務局：〒105-0013 東京都港区浜松町1-11-6 あずまビル4階 (株)ツヅキ東京支店内  
TEL:03-5470-1941 FAX:03-5470-1946  
事務局：宮本 進治(10期)・竹内 伸好(13期)

## 2. 住所変更の届け出のお願い

前回の名簿発行後、いくつかの記載の間違い・住所の変更等の連絡をいただき、ありがとうございました。住所・勤務先等の変更があった会員は、ご面倒でも下記事務局までご連絡ください。

## 3. 会費納入のお願い

ほおづえ会は、会員のみなさまの会費によって運営されています。会費未納の方は、ご協力お願いいたします。

## 4. 原稿募集

会員のみなさまより原稿を募集しております。近況報告・ニュース・ご意見等テーマは、問いません。下記事務局まで、郵送・FAX・E-mailにてお送りください。

## 編集後記

今回は早かった！何が早かったかというと、一つ目は前回からのインターバル。実に中3ヶ月での連作だ。農作物なら不作となろうことうけあいである。二つ目は、それにも関わらず、すぐ出そうと準備にとりかかった、事務局長の家山氏(14期)のフットワーク。三つ目は、その原稿依頼に対する皆様の原稿上がりの早さ、締め切りの短さにもかかわらず、実際に〆切日が〆切日として機能出来た、みなさんの責任感に深く感謝いたします。

とにかく今回は早かった。唯一遅かったのは私のフットワークぐらいではなかったか・・・とにかく今回はスピードレコード更新の記録号でもあるのです。

(非公式記録については、事務局長より口止めされました・・・)

広報委員長：山岸 学(16期)

平成11年6月25日発行

編集／発行 石川工業高等専門学校建築学科同窓会事務局

〒920-0935 石川県金沢市石引1-7-16 金沢デザイン建築専門学校内

TEL 076-262-3545 FAX 076-222-9229

E-mail:hozue@anet.ne.jp